

日本人の名前

46期生

I テーマ設定の理由

先祖を調べる上で、苗字というものがとても大切になってくる。『苗字の国、ニッポン』といわれるほど、バリエーションに富んだ国はないと思う。そんないろいろな苗字や名前にもたくさんの謎があるはずだと考え、興味を持ったので調べてみることにしました。

II 研究方法

- (1) 文献調査 日本各都道府県の苗字・名前のデータを集めて、統計にする。また電話帳などから、地元の町についても調べてみる。
- (2) 考察 (1)での統計から、各地方ごとについてどのような特徴があるのか、そして、その地方に多い苗字の由来なども考える。
- (3) 比較 全国のデータと地元の町(阪南市)とのデータを比較する。

III 研究内容

1 日本全国苗字ベストランク

(1) 全国

さて、表1のランク表を見ると、佐藤がもっとも多く横綱、鈴木が大関、少し差があって高橋、田中、渡辺と続いている。つまり100人いれば1.5人は佐藤さん、1.3人は鈴木さんがいるという計算になる。またベスト10の苗字だけで全体の1割を占めるので、10人に1人はこのベスト10のいずれかの苗字ということになる。(表1の苗字の右の数字は、1,000人に何人くらいいるかということを表している)

(2) 北海道・東北地方

まず、北海道の特徴は表2を表1と比べてもらえばよくわかる通り、開拓の北海道を象徴する苗字分布である。というのは、北海道のベスト10には、全国・東京のベスト10と同じ姓が8つもダブって並んでいる。北海道は全国からの移住者が多いので当然といえば当然である。

東北地方は表にはないが、断然多いのが佐藤で全国平均と比べ4倍も多く、1,000人につき62、63人もいる。東北地方からの移住者が北海道に多いので、東北地方に多い佐藤、高橋が北海道に多いのも納得がいく。ついでに高橋姓の由来は、「高い柱」「高い梯」で、いずれも天の神を呼ぶものとされている。

▼表1 苗字
全国ベスト10

1	佐藤	15.83
2	鈴木	13.32
3	高橋	11.32
4	田中	10.61
5	渡辺	10.07
6	伊藤	9.05
7	中村	8.64
8	山本	8.56
9	小林	8.12
10	斎藤	7.99

▼表2 苗字
北海道ベスト10

1	佐藤	30.05
2	高橋	17.43
3	佐々木	14.86
4	斎藤	12.76
5	鈴木	11.97
6	伊藤	11.80
7	渡辺	10.64
8	田中	9.29
9	吉田	8.89
10	小林	8.20

(3) 関東地方

特徴は主役の座が佐藤から鈴木に交代していて、北海道・東北の姓の分布と関東の姓の分布の対比を一言で表すと、そうなる。北海道・東北で一番ポピュラーだった佐藤姓は関東へ来ると各県で2位から4位へ後退、逆に鈴木姓が群馬県を除いた5県でトップの座を占めている。群馬県のベスト10には全国ベスト20に見当たらない姓が5つも入っている点にも目を引く(新井・星野・中島・田村・清水)群馬県は関東の中では異色の県と言えそう。またそれ以外にも栃木や茨城県でややローカルな姓が2つ3つ現れているが、首都圏になると、全国から集まってくる人が多いためか全国平均とのズレはほとんど感じられない。

▼表3 苗字 関東ベスト10

1	鈴木	20.18
2	佐藤	15.62
3	高橋	14.48
4	斎藤	12.36
5	小林	12.25
6	渡辺	12.15
7	田中	8.10
8	中村	7.86
9	伊藤	6.65
10	加藤	6.12

(4) 中部地方

「伊勢の藤原」がルーツの伊藤が他の地方に比べると、かなり多いのが目につく。それ以外には、この地方独特の姓というのはないが、東日本と西日本の中間ということで、1位、2位の鈴木姓や小林姓が東日本系で、7位から10位までの姓は西日本系となっている。その中でも関東地方と同じように、異色なのが山梨県で、1位の望月、4位の佐藤、5位の清水、6位の深沢、7位の古谷と全国ベスト20に入っていない姓が上位に顔を並べている。

▼表4 苗字 中部ベスト10

1	鈴木	18.30
2	小林	14.94
3	伊藤	14.41
4	渡辺	14.18
5	加藤	10.47
6	佐藤	10.10
7	中村	8.99
8	山田	8.83
9	田中	8.58
10	山本	7.55

(5) 近畿・中国地方

この地方の主役は断然田中姓、山本姓。東日本優勢だった佐藤姓、鈴木姓ははるか下位へ後退、全く目立たなくなる。大阪府だけでみると、一見して気づくのが「田」の字のつく姓が多いこと。1位の田中を筆頭に、吉田、山田、上田とベスト10のうち4つまでを占めている。ちなみに全国で使われている地名3,845を専門家が集計分析した結果では、使われている漢字の上位10位は①川②田③大④山⑤野⑥島⑦東⑧津⑨上⑩原の順。また、日本に多い苗字から使用漢字を割り出すと①田②藤③山④野⑤川⑥木⑦井⑧村⑨本⑩中。地名の③大と苗字の②藤を除けば5位までは両者とも顔ぶれが一致している。このデータからも地名がどれだけ苗字に使用されているかがよくわかると思う。

▼表5 苗字 近畿ベスト10

1	山本	15.83
2	田中	14.61
3	中村	10.76
4	伊藤	6.36
5	吉田	6.33
6	井上	6.18
7	松本	6.05
8	前田	4.77
9	小林	4.69
10	木村	4.43

(6) 四国地方

四つの県の姓の分布にこれという共通の傾向を見出し難いのが特徴。首位の姓は、徳島が佐藤、香川が大西、愛媛が渡辺、高知が山本とバラバラ。強いてあげれば西日本系の山本姓が四県のベスト10に共通して顔を並べている。これだけ四国が全国的にポピュラーな姓が少なく、四国地方ではポピュラーな姓が多いのも、四国が本州からあまり影響をうけずに四国の文化のようなものを作りあげていったということが原因の1つであろう。

▼表6 苗字 四国ベスト10

1	山本	12.60
2	高橋	11.92
3	田中	8.73
4	松本	7.28
5	大西	5.37
6	井上	5.29
7	渡辺	4.64
8	石川	4.63
9	小松	4.61
10	伊藤	4.48

(7) 九州地方

まず、北九州の福岡、熊本県では田中姓がトップ。山口姓がトップは佐賀、長崎県という相違はあるが、他の順位を見てみると、四県とも西日本系の大姓が優勢な傾向は共通している。だいたいその結果が表7のベスト10に現れている。

佐藤姓が断トツに多い大分県は、後藤、江藤、伊藤、工藤と、ベスト10中半分がなぜか「…藤」姓。

神話と伝説の国・宮崎と勇猛果敢な隼人族の国・鹿児島はかなり昔から異文化を持つだけあって、それが苗字として残っているということはすばらしいことだと思う。宮崎の1位は黒木、鹿児島の1位は山下。

▼表7 苗字 九州ベスト10

1	田中	13.07
2	佐藤	10.76
3	中村	10.21
4	山口	8.38
5	山下	7.30
6	吉田	6.23
7	井上	6.05
8	松本	5.86
9	渡辺	5.03
10	池田	4.78

(8) 沖縄地方

亜熱帯独特の風土・文化を保つ国・沖縄。ここは日本から離れているだけあって、めずらしい姓が並んでいる。あまり知っている人が少ないので紹介しておく、表8からでもわかるように、知っている姓は中村姓しかないと思う。沖縄ベスト20中にしては全国ベスト20に入るのは、やはり中村姓だけ。

▼表8 苗字 沖縄ベスト10

1	金城	37.45
2	比嘉	31.50
3	大城	30.57
4	宮城	24.07
5	上原	23.46
6	平良	14.37
7	新垣	13.67
8	島袋	13.53
9	玉城	12.23
10	中村	12.21

(9) 主な苗字の地域分布

苗字は大きく分けると、東日本型と西日本型、そして東海型と3つぐらいに分かれる。右には、全国1位の佐藤姓、東日本型の代表と、全国4位の田中姓、西日本型の代表と、全国6位の伊藤姓、東海型の代表を例に挙げて県別分布図にしてみた。

まず、東日本型の佐藤・鈴木・高橋・渡辺・小林・斎藤は、東北を中心に北海道や関東に図1のような形で広がっている。西日本型の田中・中村・山本・吉田・山田は近畿を中心に意外と広く分布していることが図2からもわかる。東海型の伊藤・伊東は発祥の三重県を中心に中部地方から全国に広がっている。

このように、今まで何となく使ってきた苗字だが、その苗字1つでだいたい自分の祖先がどの辺りの出身なのかなど、いろいろな発見や秘密に出会うことになる。もっと自分の苗字に誇りを持って、もっと大切にしていってほしいと思う。



▲図1 佐藤姓分布図



▲図2 田中姓分布図



▲図3 伊藤姓分布図

2 これからどうなる男女の名前

(1) 男性の名前

表9からもわかるように、ヒロシが群を抜いて多く、次いで、タカシ、アキラ、カズオと続くが、興味深いのはベスト10位までの名前がいずれもカナ3文字であること、また、その半分以上が名前の末尾に「オ」が付くことだ。

1位のヒロシは最も長い期間安定して上位の座にあった。特に大正11年から昭和43年の間に生まれた人の中では、ほとんど、すべての年代で1位の座を占めている。例外は、元号にちなんで付けられたと推測されるショウジ（昭和2年）、ショウゾウ（昭和3年）がトップになった2年間だけである。

最近では昭和46年から54年までの9年間にわたり、タカシが1位を維持し、その後昭和55年から4年間はダイスケが急浮上して1位におどり出た。現在の幼稚園児以下で最も多い名前はダイスケということになる。

(2) 女性の名前

ケイコをトップにヨウコ、ヨシコ、ヒロコがほぼ同じ割合でこれに続くが、上位32位までが末尾に「コ」で終わる名前となっている。またキョウコ、ジュンコといった拗音を含んだ名前を除けば、すべてカナ3文字の名前が並んでいるのも特徴といえる。人数の面からみると、なんと女性の4人に1人はこの名前ということになる。

明治44年生まれではチヨ、ハルといった2文字の名前が上位を独占していた。大正元年にマサコがトップとなり、以後「コ」の付く名前がトップを続ける。そして昭和55年からは、「コ」が付かず、しかも2文字の名前が上位を占めるようになった。80年代はつまりマイ、エミ、ユカなど「コ抜き2文字」の名前が目立つ時代とすることができる。現在は、悪魔やジュニアなどいろいろな名前が登場しているが、やはりまだこの傾向が続くことだろう。

3 世にも変わった苗字

。「四月一日」さん

これは苗字で、ワタヌキと訓む。四月一日には綿入れの着物をぬいであわせにする。この四月一日さんは日本中にいて、もともと綿貫と書く。衣を変えるので更衣とも書く。この苗字ができた理由は群馬県に綿貫町というのがあって、綿貫姓がここが発祥になっている。綿貫も当て字だが、四月一日や更衣などは前字の当て字です。綿貫姓だけで、全国に約1万人、東京で約千人はいる。

。「左衛門三郎」さん

日本一長い姓に左衛門三郎がある。文字にして5字、音にして8音、まずこの右に出るものはない。訓みはサエモンサブロウ。大変珍しいことです。もちろん数は

▼表9
男性名前ベスト10

1	ヒロシ	21.58
2	タカシ	13.08
3	アキラ	11.97
4	カズオ	11.68
5	トシオ	11.11
6	ヨシオ	10.56
7	ケンジ	9.21
8	ヒデオ	9.11
9	マサオ	8.88
10	タケシ	8.50

▼表10
女性名前ベスト10

1	ケイコ	22.59
2	ヨウコ	18.43
3	ヨシコ	18.15
4	ヒロコ	18.00
5	カズコ	16.26
6	ミチコ	14.81
7	マサコ	14.70
8	サチコ	13.56
9	トシコ	13.17
10	ノリコ	13.00

少なく、埼玉県に数軒である。どうしてこのような姓が生まれたか？ 姓氏発生の謎を解く上で重要なので説明する。まず類似の姓を2、3あげると、次五右衛門（じごえもん）、太郎丸（たろうまる）、右衛門佐（うえもんのすけ）、左衛門（さえもん）などがあります。ここの4つはみな名前であることがわかる。なぜ名前が苗字になったのか？ 1つは明治の時に百姓などの苗字を名乗れなかったのでそのまま苗字に転用した。2つは、それらの名前を持った人の居住地が、同名の地名になり、後世その土地に住んでいる人が、そのまま苗字とした。その地名をいくつかあげてみると、佐エ門次郎、右エ門五郎内、次郎右衛門興野、次郎五郎、太郎丸などがある。

。「一口」さん

イチグチと言っている人がいるが、ほんとうはイモアライと訓む。京都府久世郡久御山町に一口という地名があって、この町は淀川の支流の沼で、ここは出口が1つしかない。そこで〈出口が1つのイモアライ〉と土地の人が言った。なぜイモアライかと言うと、この出口にイモを洗う稲荷を祀ってある。イモとは疫病神のほうそうのことで、洗うとは追い払うことだ。昔は、出口が1つしかない袋小路などには、お稲荷さんやお地蔵さんを祀ってイモを洗うことをしたそうです。

。「浮気」さん

「浮気」ウワキとつい訓まれてしまう。しかしこれは「ウキ」と訓む。水が地上に浮いている土地を言う。ま、湿地帯で、浮田などと熟語になれば、「戦国武将、浮田秀家を出した浮田だな」などと分かってもらえると思う。浮田は文字を飾って宇喜田、宇喜多などにもします。やはり浮くという文字は泥田の深田でいやなのでしょう。浮気さんでも転じて宇喜としている人が多いようです。

このように苗字には一般に知られているものから、ここで紹介したように、地形から来た変わった苗字、職業から来た苗字などたくさんある。

4 地方の土地の苗字

僕が阪南市に住んでいるということで電話帳などから苗字を集計した。表11を見ると、さすが大阪だけあって西日本型の山本、田中、中村、井上などが上位を占めている。しかし、全国ベスト200にも入っていない姓が阪南市ベスト50中に13も並んでいる。例えば、畑中、根来、中谷、芝野、北浦、武輪などがそうである。阪南市を苗字で色分けしてみると、全国ベスト200に入っていない苗字で、根来を除けばある所にすごくかたまっていることがわかる。これは、地方に見られる地主などが今でもそこに残っているためと思われる。根来は、和歌山に根来寺があるため、そこからきたものだと思う。また、南が多いのは、この阪南市が大阪でもかなり南に位置しているためだろう。このように、その地方に多い苗字や、特有の苗字を見るだけでも、その地方の特色などを知ることができる。

▼表11 阪南市
苗字ベスト10

1	山本	3.12
2	南	2.74
3	田中	2.67
4	畑中	2.19
5	辻	2.14
6	根来	1.62
7	中村	1.55
8	石橋	1.54
9	中谷	1.52
10	山田	1.47

IV 結 論

『「苗字の国・ニッポン」と言われるほど、バリエーションに富んだ苗字の国は世界中にない。』

上のように日本は世界でも珍しいくらいの苗字をたくさん持っている国であるが、日本の苗字は地域によって2つ、3つに分かれている。東日本型、西日本型、東海型など、それぞれ特徴を持っている。いくら1つの島国日本だからといっても苗字だけでもこれだけに分けられるというのは驚くべきことである。

名前の方は、グラフにしてみるとわかりやすいのだが、名前の特徴の変化というのも時代に大きく反映させられている。何でも新しいものがうける現在では、やはり新しい変わった名前も登場してきている。

V 総 括

この研究では阪南市を調べたように、地方によってその特徴が現われる苗字というものは、やはり素晴らしいと思う。みなさんも、もっと自分の苗字や名前に興味を持って追及していくと今まで知らなかったことが発見することができると思う。

また、珍しい苗字でも、今まで僕が知らなかったようなおもしろい苗字が登場したり、また、その苗字ひとつが生まれてくるのにできるエピソードなどいろいろおもしろいこともわかった。

このように、日本では日本人は、その文化のひとつである苗字や名前を捨てないで、大切にしてほしいと思う。

・参考文献

- ・第一生命広報部編 (1987)
「日本全国 苗字と名前おもしろBOOK」恒支出版 256P
- ・丹羽基二著 (1992)「姓氏の歴史と謎」南雲堂 226P
- ・丹羽基二著 (1992)「名字でここまでわかるおもしろ祖先史」青春出版社 219P
- ・NTT (1994)「もしもし阪南」NTT 160P
- ・NTT (1994)「ハローページ 大阪府泉佐野・泉南地区」352P